

ニュースレター **BEYOND** ビヨンド 08 SPRING

●発行日 2008年5月18日 ●発行者 西郷純一 ●第20号 ●News Letter for WAJC/JCCCW/WWJM/西郷を支える会

シフト・チェンジのとき

●ここ米国の首都ワシントン郊外で開拓を始めて8年半。●その使命遂行のために、生命的媒体として設けられたコミュニティー・センターの働きも今年の9月で満4年。●しかし、振り返ってみると、そのいずれの働きも、滞在期間2-3年と言う「短期滞留者」の方々を主な対象として進められて来たと言える。●しかし、それは、ある意味で「意図的」と言うより、無意識、かつ自然の流れでもあった。なぜなら、当地の日本人の場合、短期滞留者は、(1)人口的にもその占める割合が一番多く、(2)その多くがある程度「固まって」同じ地域に住んでいるためリーチアウトし易く、(3)短期海外滞留ゆえの「生活の不案内」、またそこから生ずる「不安」ゆえに、外部への「依存」度も高くなり、教会、また、クリスマスとの接触も必然多くなる。(4)同時に、短期滞留者は、新しいことに積極的に挑戦する傾向が強く、「教会」や「福音」に対してもオープンとなる率が高い、等々がその理由である。●言い換えるなら、何かを意図的にしない限り、気が付いたら、目の前の「短期滞留者中心」の伝道となっていると言うのが、正直な現実である。●これは、確かに、海外にある日本人教会の「使命」と合致している。短期滞留者への伝道は、海外の邦人教会に託せられた重要な「特権」、また「使命」である。●しかし、ここで重要なことがある。聖書的に言うと、「伝道」のために神の定められた主要なエージェントは「教会」であると言う事実である。●しかし、「短期滞留者」中心の伝道のもとでは、伝道のエージェントであるべきこの「教会」の建設が極めて困難である。なぜなら、短期滞留ゆえに、その構成員たるメンバー、参加者の入れ替わりが余りに激しいからである。●特に、人口中、政府関係者、研究者の比率の高いこのワシントンの地で、この現象を、これまでのどの地よりも身に沁みて感じている。●もし、このまま行くなれば、私たちがしていることは、「弱い母体で子ども産み、その弱さゆえに十分な子育てもできないまま、自分の手元から子どもを手放す母親のようであり、それを永遠に繰り返すことになる。(p.4に続く→→→→)

WAJC REPORT 07 クリスマス



●まず、12月14日(金)、コミュニティー・センターの「英会話クラス」の参加者を中心にクリスマス・パーティーを開いた。大人28名、子ども10名が参加。先生の一人シャロンが、子ども達のプログラムを担当、もう一人の先生であるデボラが、婦人たちのためのゲームを指導、キャシー先生が、

クリスマス・キャロルをリードするなど、多彩なプログラムの中、ヨハネ3:16からクリスマスメッセージ。●恒例の「クリスマス祝会」は、今回もダーウッド・



アライアンス教会で、12月22日(土)にもたれた。大人59名、子ども36名、合計95名が参加。プログラムは、木谷(嶋田)貴美子師とご長女、また友人と

の独唱、三重唱、更に、センターで英語の先生をしていて下さるデボラ師の独唱、婦人達の聖歌隊、子どもたちを中心とする聖誕劇、牧師によるメッセージ、クリスマス・キャロルを歌いながらのキャンドル・ライト・サービス、そして、勿論、ポットラック・ディナー。●翌日12月23日(日)は、30名の方々と「クリスマス礼拝」を守り、●翌月曜日の夜には、クリスマス・イブ・サービスを17名の方々と静かに祝った。

08元旦礼拝

元旦礼拝には、19名の方々と共に、新年のお言葉を神様から頂戴し、新しい年のため御恵みを頂いた。

そして、礼拝後には18名の方々が、牧師宅に移り、新年の「御節料理」と主にある交わりを楽しんだ。



(元旦礼拝のメッセージも、HOME PAGEで聞ける)

海外宣教・強調週間

●今年教団の掲げた海外宣教のテーマは、**Against ALL ODDS(如何なる困難・迫害にあっても)**であった。●当教会では、1月24日木曜の集会には、アフリカのコート・ディ・ボアー、現在は、セネガルでご奉仕しておられるウェスレー・ネビーアス先生を、●同週金曜日の婦人祈禱会と日曜礼拝には、単身で36年の長きにわたりインドネシアの地で、児童伝道を中心にご奉仕して来られたジュディー・ギャスキン先生をお迎えした。ギャスキン先生は、激しい迫害下にも、建設され、成長していくインドネシアの教会の様子を、力強く証しされた(このメッセージもHome pageで聞ける)

SS 開校一周年

●「日曜学校」開校以来一年が経過した。その感謝を表すために、先生の一人、また生徒の母親でもあるワイルドマン裕子姉が、提案し、リーダーシップを取って一つの企画をしてくださった。先生方、お母様方が協力して、生徒たち一人一人の手形、絵、名前の入った一枚一枚の布切れを、結び合わせて「十字架」のバナーを作った。2月10日(日)、その完成を祝って、皆に披露し、教会の壁に掛けて、共に主に感謝を捧げた。また、一年間校長を勤められたカスコー美加姉と牧師

とに記念品が贈られた。

●一時よりノン・クリスチャンの家族からの子どもたちの参加が少なくなって来ているが、続けて祈りつつ努力をして行く計画である。そのために、ワイルドマン姉が、コミュニティー・センターの参加者たちに、子どもたちを日曜学校へ送ってく



れるようにアピールすることを考えている。●また、最近、三谷基兄も、「お話し」を担当するレギュラー・スタッフとして新たに加わってくださった。感謝!!

08教会総会

●今年の総会は、2月24日「会計関係」、3月9日「行事関係」と2回に分けて持たれた。●今、教会は人数面のみならず、様々な意味で「試み」を通過しているが、●最も大きな「重荷」は、昨年度一人も受洗者が起こらなかったことである。●ある地方会員から、08年度は、受洗者目標10名と励ましのお言葉を頂いた。●教会員および参加者一人一人の霊的成長と、新たな入信・受洗者の興起のために続いてお祈り頂きたい。

08過ぎ越しの食事

●今年は、久しぶりに「過ぎ越しの食事」(センター・ディナー)を受難週の水曜日(3月19日)夜に守った。今回は、センターのプログラムで日



本語を勉強しているユダヤ系アメリカ人、フィリップ・ワイズバーグさんが指導してくださった。彼はクリスチャンではないが、奉仕の依頼を快諾。お母様も食材を準備するなど、蔭で様々な応援してくださった。フィリップも周到な準備をして、ユダヤ人の家族が今でも、どのようにこれを守り、彼らにとってどのような意味をもっているかを、プリントを配布し読みつつ、丁寧に説明してくださった。参加者は10名と少数だったが、有意義かつ、恵まれた集会であった。

08イースター・センター



●グッド・フライデーの特別祈祷会は、朝・晩で僅か7名の参加者だったが、主の十字架のご受難を覚えて聖書を読み、祈るひと時を持った。●受難週を越えて、主のご復活を祝うイースターの日、まず日曜学校で子どもたちと甦りの主を礼拝、●その後、一般礼拝において、日曜学校の子ども達が賛美し、また寺部基子姉のフルート独奏の捧げものもあり、34名の方々と復活の主を仰いだ。●午後の「イースター祝会」は、牧師宅で、ポットラックから始まり、ゲーム、賛美とメッセージ、そして最後に、子どもたちお待ちかねのエッグ・ハンティングと言うプログラムが進められた。大人・子どもを合わ



せて82名が参加。普段教会に来ていない日曜学校関係、コミュニティー・センターの参加者家族が16家族(内13家族はお父さんも)が参加された。感謝。

コミュニティー・センター 帰国者ラッシュ

●今年の冬は、気候こそ比較的温暖でしたが、何しろ、かつて無いほどの「風邪」「インフルエンザ」が、子ども、大人を問わずに猛威をふるった。そして、それは今だに尾を引くように続いている。●そのために、欠席者のみならず、参加を断念する方々も多くあった。●しかし、今年になってからの、何よりも大きな変化は、「帰国者ラッシュ」だった。●それは、2月半ばから始まり、3月半ばでピークとなり、今も尚続いている。●昨年の秋の参加者を見ると、その中から、既に30名近くの方々が帰国された。●これは近年にないことだった。現に参加者自身が、帰国者の多さに驚いている。●毎年帰国者はいるものの、ここ数年続いて来られていた方々の「帰国の周期」が来たと思われる。

ご奉仕、有難うございました

●忠実にご奉仕下さった二人の先生が、冬期、春期からそれぞれご奉仕を退かれた。●お一人は、キルトのクラスを長きに渡って担当されたカスコー美加姉で、ご家庭の事情もあって、今年の冬期コースから暫くお休みされることとなった。●もうお一人は、約2年に渡って、ある時は、「大人のための英会話教室」を2クラス、また、ある時は、大人のためだけでなく、「遊びながら学ぶ母と子の英会話教室」をも担当して下さった有元泉さん。有元さんは、遠からぬ?ご帰国とそ



れにかかわるお子様のご事情、等々で、春期からご奉仕を退かれた。●これまでのお二人のご労に心から感謝したい。

神様の伏兵:韓国パワー

●生徒、先生の「確保」に困難を感じる現況のただ中、神様は、「韓国人クリスチャン」という、ご自身の「伏兵」を備えておられた。●これまでも、韓国の方々がクラスの「生徒」として数名参加しておられた。●しかし、最近では、「生徒」でもない3名の韓国のクリスチャン婦人が、自発的に毎週のチャイルド・ケアの奉仕をして下さっている。●更に、その他数名の韓国の婦人方が、韓国語クラス、韓国料理教室、韓国折り紙教室、等々の「先生」として、毎週、隔週、或いは、月一回の奉仕をして下さる。●これらのクラスは、巻頭言にも記した「長く地域に住む日本人」のニーズ、要望に応えるためにも、タイムリーで適宜なクラスである。●更には、これらの韓国人のクリスチャン婦人が、協力して、近隣の韓国語教会、韓国人クリスチャンた



ちに協力を要請するために、私たちの働きを紹介する韓国語のプロシユアを作って下さった。

●これらの韓国人

クリスチャンの婦人たちは、皆、30才台で、小さなお子様をお持ちの方々ほとんどである。ご自分の教会のためにも、日曜、また週日の教会の集会に出席し、自宅でも家庭集会を開き、早天祈禱会にも出席し、その他にも、様々な奉仕の責任を持っておられる方々である。しかし、彼らは、自分の教会に止まらず、「日本人宣教」のお手伝いをしたいとの気持ちをもって、上述のようなご奉仕をして下さっている。●これら韓国人の奉仕者のほかに、米国人を中心に諸教会から7名の方々が「先生」としてご奉仕くださっている。感謝。

内外を問わず皆の協力

●このような外部からの協力者だけでなく、WAJCの内部からも、ワイルドマン裕子姉、竹谷亜希子姉がチャイルドケアの奉仕に、ウィット加代子姉が会計の奉仕に、寺部基子姉が「ビーズ教室」の先生としてご奉仕くださっています(竹谷姉は出産のために4月からお休み)。また、コーキンブッシュ静子姉が、「押し花カード教室」開いて下さる計画もある(同姉は83才であるが、ご自分で片道45分ドライブして、毎週日曜日、日曜学校の時間から出席、昼の交わり、午後のプログラムにも積極的に参加、木曜日の聖書の学び会にも欠かさず出席しておられる)。

その他の報告

神山家に第5子大生くん誕生!!

●昨年12月23日(日)、前日夜、「クリスマス祝会」の片付けの奉仕に遅くまで加わっておられた美加姉と知久兄に第5子(男の子)が与えられた。名前は



大生くん。おめでとうございます!! ご両親と4人の兄姉からは勿論、教会のメンバーからも一身に愛を受けて、可愛くも、健康にスクスクと育っています。ご家族の上に神様の御祝福をお祈り頂きたい。

東野家のワシントン来訪



●プリンス頓で受洗された東野倫子姉(現札幌西教会会員)が、ご主人と長男の開くん、お友達の木島香さんの4人

で1月に来訪。1週間の交わりを楽しむことができた。●この間、拙宅での交わり、ワシントン観光のほか、●WAJCで礼拝を共に守り、証しをお願いしたばかりでなく、●倫子姉には、センターのためにも、来米された翌日に早速「エンボッシング」の教室を開いて頂いた。●ご主人の史裕さんとも、久しぶりに

ゆっくりと信仰の話しができたことも感謝。

京都からの場姉の来訪

●一昨年夏に受洗。直後に京都に戻られた的場弥生姉と長女のはるかさんが、3月23日、イースターの日の朝来米された。空港からまっす



ぐに西郷の拙宅に。到着するや否や、まるで2年間のブランクを忘れさせるかのように、ごく自然にパントリーに掛けてあるエプロンを付けて、台所に立ち、「イースター祝会」の裏方さんを勤めてくださった。●それ以来、ほんの僅かな時、滞米当時のお友だちとの旧交を楽しんだだけで、ほとんどの時間を、集会出席、その週末、金・土曜日に持たれたセンターのヤードセール準備のために、惜しみなきご奉仕をしてくださった。●折りしも、その週の半ばから、かおる師が、高熱を出し、完全に体調を崩して数日間寝込んでしまうというめったにない事態が起こった。その中で、弥生姉の存在とご奉仕は、正に「天の助け」であった。●この間の早天祈禱会を始め諸集会を通し、個人的にも共に交わり、大いに聖書や信仰の話しをするときが与えられたことを感謝する。

08 さくら祭り

●今年もワシントン DC「さくら祭り」のハイライト「Cherry Blossom Queen」を選ぶ晩餐会で、「祝福のお祈り」をさせて頂いた。●「dignitary」と呼ばれる方々も含めた、普段はお会いする機会も少ないがDCならではの人が多く参加しておられる。たとい5分ほどとは言え、その方々のために神様の祝福を祈れるだけでなく、祈りの言葉を通して、それらの方々の心に直接触れる機会となっていることを今年も聞かされ見せられ感謝した。



キーンさんと佐藤昌介氏

●ワシントンの「さくら祭り」で、日本側の委員として、中心的役割りを担っておられるキーン昭子さんのご主人のDavidが1月末に召天された。40年以上に渡って軍関係の仕事がされていた。4月の終わりにアーリントン墓地でメモリアル・サービスが持たれた。●軍チャプレンの司式によるチャペルでのサービスの後、厳かに衛兵に付き添われた馬車に轆かれて行く棺、軍のバンドによる演奏の中鳴り響く3発の号砲。チャプレンの手で遺族へ渡された大統領からの国旗の授与、等々初めて見る光景ばかりであった。●引き続いて持たれたレセプションを含めて、これらの儀式の中で、聖書朗読、祈禱の御用に与らせて頂きつつ、キーン氏の死を悼む中にも、「柔和なリーダー」の人物像を感慨深く回想していた。●この葬儀に参列するため、昭子さんのご兄弟とそのご夫人方が合計8名、日本から来られた。●実は、昭子さんご兄弟方は、あの「Boys be ambitious」で有名なウィリアム・クラークの直弟子であり、後



に、札幌農学校の後身「北大」の初代総長となった佐藤昌介氏の「ひ孫」に当たられる。佐藤氏は、クラーク氏の下、札幌農学校の

第一期生となり、入信。クラーク氏が、僅か9ヶ月の滞日で帰米した後は、実質的にリーダーとなって、二期生の内村鑑三、新渡戸稲造らの信仰と教育の両面に多大な貢献・影響を与えた人物である。●今回、ご一族が、ワシントン滞在中、一晚、昭子さんのお宅で、佐藤昌介氏の信仰の遺産について語り合い、小生も関連して御言葉を取り次がせて頂いた。●最近、紺野一希兄の父上を通してクリスチャンではないが、橋本佐内の生涯に触れさせて頂くなど、幕末・明治維新当時に活躍した人物について思いを馳せる機会が多い。●「今」と言う時代に生き、使命をもって仕えるクリスチャンとして、あの時代の人物たちの生き様に学ぶことは多いと感じている。

さいごう・ファミリー・レポート

●しのぶ：6年間余勤めていた保育園が「突然」、この5月末をもって閉鎖することとなった。以前からもその運営・経営状況から何ら何となく心配していたが、公式には全く「晴天の霹靂」であった。▶毎朝5時半過ぎに起きて、6時45分には家を出、午後4～6時の間には帰ってくる。その姿に、親として何となく精神的に安住していたが、今回のことで、それが安易な自己充足であることに気が付いた。▶彼女は、これから、「ハンデ」を持ちつつも、新しい仕事探しと言う未知の試練に船出して行く。お祈り頂きたい。●宣子(エスター)：現在も、なお、フィラデルフィアに留まり、小さな「ガーデニング・カンパニー」に勤めて毎日「肉体労働」をしている。彼女のあの小さな体のどこにそんなパワーがあったのかと自他共にビックリしているようであるが、とにかく本人は今の仕事が好きなようである。▶今の仕事も含めて、彼女の長期的な仕事、将来の方向のためにお祈り頂きたい。●かおる：日曜・週日の集会出席・奉仕、月～金曜日のコミュニティー・センターのチャイルド・ケアと連絡事務、個人的なピアノ教授、等々相変わらずの忙しさ。最近、腰痛、手の関節炎と戦っている。●これら家族の霊的・健康的・経済的な必要のためにお祈りを嘆願する。



特報:5月25日(日)戸部和江姉が受洗される。乞う祈禱!!

→→→→→巻頭言続き(p.1から) →→→→→

●そのように考える中、ここで、祈りつつ、意図的に、ミニストリー-方向を修正するように導かれている。●即ち、短期滞留者中心から、長期滞留者中心への伝道へと切り替えることによって、まず、伝道の母体となる教会の建設と強化に力を入れることである(勿論、これらは、ある意味で、教会建設の基本であり、「何を今更」の感こそあれ、珍しいことではない。しかし、所謂、隆盛期を過ぎた海外における邦人伝道に従事する小生にとって、これは重要な意識改革なのである)。●このことによって、伝道の主要対象者の絶対数が減ることは明らかである。その居住している地域も拡散しており、そのニーズも多様であり、方策的にフォーカスすることが難しくなることも明らかである。●更には、短期滞留者の方々が持つておられるような「生活の不安」や、新しいものへの「オープンさ」は必ずしももっていないばかりか、むしろ、既に長年住んだコミュニティー内で安定した位置を築き、新しいことには、概して慎重であることが多い(この点では、国内の伝道と恐らく同じであろう)。●今後、教会として考え、努力して行きたいことは、どうすれば、地域に長く住まわれる方々に触れることができるか、集会に、また、礼拝に出席して頂くことができるかを最大の関心事と目標にすることであり、●コミュニティー・センターとしても、プログラムを英語クラス中心から、より広い「趣味のコース」へと枠を広げて行き、更には、当センターを「常設」されたコミュニティーの「広場」「連絡場所」的役割を果たす所とすることである。●感謝なことは、開拓7年を経た今漸く、地域の方々にも知られ始めて来た実感があり、そのような繋がりも見え始めてきた。●また、礼拝には十分に反映されていないが、火曜の夜の集会にも、木曜の午後の集会にも、バージニア側に、またメリーランド側に、それぞれ長期に住まわれる方々が、集まれるようになって来ている。●また、センターのプログラムの方も、近隣の韓国教会のクリスチャンの方々が、英語以外のプログラムへの発展のために、自発的に協力して下さり、韓国語、韓国料理、韓国折り紙等々の教室が始まりつつある。●しかし、これら方策的、表面的なことの根底に、何としても教会の「霊的成長」が必要であることに変わりはない。●入信・受洗者の陸続たる興起と共に、ペンテコステの御霊のお働きによる、「霊的成長」のために、ぜひとも皆様のお祈りを請いたい。●個人的にも、還暦を目前にし、先年、日野原重明先生が星野富弘さんと対談されたとき、「60才からの人生は、サッカーの後半戦のようなもの。前半戦を振り返って、作戦を練り直し、色々新しいことを試みる」と言う旨のことを言われたことを思い出している昨今である。

みなさまのご支援を心から感謝します!!

「西郷純一・かおるを支える会」サポート

●日本からのご支援：(銀行)UFJ川越支店 (名義)西郷純一・かおる師の会 (口座)普通 3818778

●日本国内の連絡先：馬場(〒350-1113 埼玉県川越市田町 17-47) ●同電話・ファックス：(0492)41-7048

●米国：西郷純一・かおる(13008 N. Commons Way, Potomac, MD 20854)

●Tel/Fax：240-314-0249 ●EM：saigo@wajc.org / junsai@comcast.net

WAJC への日本からのサポート

コミュニティー・センターのために

●銀行：三井住友銀行銀座支店(026)

●振り替え口座：「CCP 日本事務所」00100-5-277547

●口座：ワシントン・アライアンス日本語教会・普通・7591975

●郵便口座：「CCP 日本事務所」10060-95110331

●WAJCのHP：<http://www.wajc.org>

●銀行口座：三井住友銀行福生支店(697) 「CCP 日本事務所」普通 7342907

●日本の連絡先：竹内祥隆 電話：042-555-3261

●日本事務所(代表)：竹内祥隆 〒205-0022 東京都羽村市双葉町 2-16-27

●同住所：〒205-0022 東京都羽村市双葉町 2-16-27

●電話：042-555-3261 ●HP：<http://www.community.wajc.org>